

令和3年度 第2回 屋久島世界遺産地域科学委員会
議事要旨

日時：令和4年2月1日（火）9:00～12:00

場所：Web 会議方式

●議事(1)前回会議の議論の整理について

資料1

- ・質疑なし

●議事(2)令和3年度世界遺産地域モニタリング調査等結果(報告及び意見聴取)

資料2-1(環境省)、2-2(林野)

- ・屋久島科学委員会の資料、議事録、それに係るデータ等については、利用しやすい形で情報公開してほしい。(湯本委員)
- 屋久島世界遺産センターのホームページを全面的に改修中であり、少しでも使いやすく情報提示ができるよう努めていく。(環境省)
- ・IUCN とか世界から見て、屋久島の取り組みがほとんど見えていない。世界遺産科学委員会のかんりの文章を蓄積しているので、そろそろ屋久島の世界遺産地域の管理の現状について、まとまったドキュメントを用意して明文化をするというようなことも含めると良い。(矢原委員)

<環境省の結果概要について>

- ・高塚小屋の登山者カウンターの欠損データについて、縦走登山者のモニタリングをする際には、山岳地域の利用者把握は重要となるため、モニタリング機器を新設する等の対応が必要ではないか。(柴崎委員)
- 登山者数カウンターは多湿環境に設置しているため、機器を新設しても故障が伴うため、適切なデータ回収ができるよう検討していく。(環境省)

●議事(3)令和4年度世界試案地域モニタリング調査等計画について(報告及び意見聴取)

資料3-1(環境省)、3-2(林野)

<環境省の調査等予定について>

- ・宮之浦岳縄文杉線(淀川登山口～平石岩屋区間)の浸食防止対策の工事を直轄で予定しているが、簡易な工事は地元ガイドを活用し、地元経済にも寄与できるようにしてほしい。(荒田委員)

●議事(4)令和3年度第2回屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議について(報告)

資料4-1

- ・高標高域は生息数が減少しているが、捕獲と自然変動がそれぞれどの程度影響しているのか把握できるようにするのか。(柴崎委員)
- ヤクシカの遺伝子流動や糞の中の植物DNAデータ解析の結果、高標高地域の減少に、低標高地域での

捕獲の効果は少なくとも一定程度あると考えられる。また、高標高域が非常に寒い時期には死亡率が上がるという自然要因もある。今後は自然要因と捕獲による影響割合の評価ができるようデータを充実させていきたい。(矢原委員長)

●議事(5)屋久島世界遺産地域管理計画に基づく管理状況の評価について(報告及び意見聴取)

資料5-1~5-5(環境省)

- ・10年間のモニタリング結果についての、科学委員会としての専門的な総括的な評価というのはどのタイミングでどのような形で行うのか。(土屋委員)
- 管理状況の評価の考え方について、この内容で概ね問題がないということであれば、来年度1年間をかけて、しっかり評価シートを作成し、また科学委員会としての評価を総括していただくことを予定している。(環境省)
- ・屋久島世界遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング項目の見直しが必要になると思うが、どういったスケジュールになるのか。(柴崎委員)
- このモニタリング評価終了後に評価指標についても意見を反映して、モニタリング計画を見直していくというプロセスを考えている。(環境省)
- ・前回の管理計画改定から、あまり議論されてこなかった項目、10年経過して利用や遭難については状況変化している項目もあるので、モニタリング項目改正の際には検討してもらいたい。(柴崎委員)
- 行政としてはモニタリング項目を決めて計画しているので、全体の枠組みを見直すことについては、なかなか臨機応変に対応するのは難しい部分もある。新しく出てきた課題等については、ある程度時間をかけてモニタリング項目に盛り込むかどうかを判断していく流れになる。(矢原委員長)
- ・個人的な考えとして、ヤクシカWGにおいて、ヤクシカの食肉資源化について、捕獲したうち、どれだけが資源利用されていて、何が課題なのかということは、また取り上げていただけた方が良い。(柴崎委員)
- ・ヤクシカの食肉利用に関するデータはこれまでも散発的に出てきているが、継続的に紹介してもらいたい。自家消費利用も把握できれば理想的だが、難しければ処理頭数で把握するしかない。(柴崎委員)
- 搬入頭数が多すぎると処理ができず断ることもあるとのことで、どの数値を評価するかは検討する必要がある。屋久島は地形が険しい中、加工処理施設への搬入頭数割合25%ということで、かなり積極的に取り組んでいると思う。本州は10%程度、地形も比較的緩やかで搬出がしやすい北海道は20%程度。(八代田委員)

●議事(6)屋久島世界遺産地域管理計画の改定について(報告及び意見聴取)

資料6-1~6-3(環境省)

- ・屋久島の非常に広い範囲を占めている人工林をうまく活性をして、林業を上手く振興し、再び屋久島における主産業の一つにしていくにはどういう風にしたらいいのかという事について、考えていきたい。(湯本委員)
- 移行地域での人工林管理についての意見に賛成。人工林について、木材生産を継続しながら、生物多様性も高めていくような施業のあり方を提案できればよい。(土屋委員)
- ・資料6-2、4. 管理の基本方針、エ. 森林と人とのかわりの歴史を踏まえた管理という事で、小

杉谷だけが上がっているが、宮之浦や永田においてはそれなりの森林施業が行われたので、他の地域の利用の形態等についても入れていく必要があると思う。また、人工林は初期伐採で100年を超える計画を立てているが、全国の手本になるような施業についても設けてもらえれば、別の面での人との付き合い方を見せられると思う。(荒田委員)

- ・西部林道ではツーリズムで公認ガイドがどういったお客さんを連れていくか、環境教育、研究をする際のガイドラインのようなものを、考える必要がある。(湯本委員)
- ・山岳地域の適正利用を推進するにあたっては、安全安心を確保するための情報の積極的な発信が必要となる。防災の視点も盛り込んでほしい。(下川委員)
- ・管理計画策定はこの令和4年度12月周辺で決めるという事ではなくて、結果次第ではもう1年延ばすという必要があるのではないか。(柴崎委員)

→スケジュールに関しては、議論の流れを踏まえてしっかりと対応していきたい。(環境省)

- ・作業部会と科学委員会の間でキャッチボールをするという形で、管理計画を深めていくのが基本的な形になる。科学委員会の限られた時間内で管理計画について議論するのではなく、少なくとも1回は管理計画改定についてしっかりとした議論が必要になる。(土屋委員)
- ・令和4年度第1回科学委員会の前には、事前に文章でのやり取りを含めたキャッチボールがあればいいと思う。(矢原委員長)
- ・例えば、管理の方策の生態系の項目において、西部地域に限定して生態系を入れるというのはバランスを欠く。今の記述の中で川はほとんど登場しないが、屋久島は全国的にも極めて珍しい護岸がされていない川が各地にあって、大きな魅力がある。そういう所が書き込まれてほしい。各委員からコメントをもらう期間をとってはどうか。(矢原委員)

→この科学委員会が終わってから、現行の管理計画の文章の改定の方向性の資料をもって意見照会させてもらう。(環境省)

- ・科学委員会の委員が作業部会をオンラインで傍聴できるようにしてほしい。(柴崎委員)

→オンライン開催の場合は、オブザーバー参加ができるような形をとれるように努める。(環境省)

- ・山岳利用のあり方検討会が9月に終了したが、そこで議論された内容は作業部会の中でも報告されて管理計画に反映されるのか。(柴崎委員)

→山岳ビジョンに関しては、管理計画に盛り込める部分は入れていきたいと考えている。(環境省)

●議事(7)屋久島世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会について(報告及び意見聴取)

資料7(林野)

- ・これまで堰の役割をしていたマウンドに土砂の供給が減っている原因は何なのか。(矢原委員長)

→黒味岳方向の登山道からの土砂流入防止対策をしたことで、現在は湿原内への土砂流入がないのか、明確ではないため、次年度以降の調査が必要と考えている。(下川委員、井村委員)

- ・木道への対策として、西側の歩道を撤去して、下流側の堤防の役割を果たしているところに歩道を設置してやると、堰の役割が果たされるといった対策はありうるのか。(矢原委員長)

→対策としては深掘れしているところを埋めてしまうような大きな外科的対応ではなく、自然の治癒力を活用して人為の影響を低減させたい。そのためには、予算や利用のこともあるので、バランスをとってどういった提案ができるのか考えている。(下川委員、井村委員)

- ・流路の固定化には、木道の影響が大きいとの報告だが、橋脚を高架化すると解決できるのか。(柴崎委員)
- 木道の高架化や撤去についても湿原検討会で議論を始めたところである。高架化という対策になった場合でも、急激な変化は逆効果になる可能性もあるので、自然の治癒力を見極めながら少しずつやっていく方法を考えていく。(下川委員、井村委員)
- ・木道設置によって、地下への流出量には影響はあったのか。(柴崎委員)
- 大量に雨が降ったときには問題ないが、水が少ない時期に木道の上流部と下流部との水頭差ができて大きく浸食されると推測している。(井村委員)

●議事(8)屋久島世界遺産・国立公園における山岳部利用のあり方検討会について(報告及び意見聴取)

- ・本年度に完成する山岳ビジョンについてはモニタリングとそれに基づいた修正を常にやっていく必要があるが、実行できる組織がないため、モニタリングに関する評価等アドバイスは科学委員会が対応することになる。山岳部の利用に関しては今まで以上に科学委員会で議論をして提言をしてほしい。(土屋委員)
- 科学委員会で引き続き助言いただくほか、地域連絡会議、山岳部保全協議会などの現場レベルの協議会でもしっかりフォローアップしていけるように努めていきたい。(環境省)

●議事(9)その他

- ・永田浜や福德岡ノ場の軽石が永田浜をはじめとする屋久島の海岸に多量に流れ着いた場合、自然の状態からすると放置がいいと思うが、人の手で除去するのか。(井村委員)
- 鹿児島県の海岸漂着物等地域対策推進事業で、対応できると町生活環境課から聞いている。現在のところ、多量に漂着しているということはない。(屋久島町)